

第3回 苅田港カーボンニュートラルポート（CNP）検討会 議事概要

日時：令和4年2月10日（木）14:00～16:00

場所：WEB開催

【議事概要】

（議事2-1：第2回CNP検討会の振り返り等）

事務局より、第2回検討会の振り返りと、第3回検討会での検討事項について説明し、確認を行った。

（議事2-2：水素・燃料アンモニアの動向等）

水素・燃料アンモニア等のサプライチェーンの動向や水素・燃料アンモニア等の利活用に必要な施設整備等について知見を有する民間企業・団体をゲストスピーカーとして迎え、話題を提供して頂いた。

＜ゲストスピーカー＞

- ゲストスピーカーより発表のあった、下水汚泥より発生するガスから水素を製造する技術開発の取組は、福岡県内で実証や商用化していく予定はあるか。

＜ゲストスピーカー＞

- 本取組は、海外の先行事例を発表したものであり、現時点では国内での具体的な取組はないが、将来的には国内で実証できればよいと考えている。

＜事務局＞

- 構成員が将来的に水素・燃料アンモニア等を活用していくためには、これらの燃料を安価に調達することが重要になると考えている。これから10～20年先を見据えたとき、水素・燃料アンモニア等の需要や価格の動向がどのように変化していくことになるのかイメージがあればご示唆願いたい。

＜ゲストスピーカー＞

- 国の目標としては、水素の供給コストを2030年に30円/Nm³、2050年に20円/Nm³まで低減することが示されている。水素の供給コストを低減するためには、水素の量的な確保が必要であり、NEDOのグリーンイノベーション

基金を活用し、海外から水素を大量輸入するための技術開発の検討が行われている。今後、各企業が CO2 削減に向けた取組をそれぞれ検討しながら、カーボンニュートラルを目指すことになることを認識している。

<事務局>

- 苅田港における水素・燃料アンモニア等の安価な調達のためには、本日のような検討会の場を通じて、企業の皆様から水素・燃料アンモニア等の需要ポテンシャルや導入したい時期等の情報を提供頂き、水素・燃料アンモニア等の供給コストの低減に必要な対応案を議論していくことが重要と考えるが、その認識で問題ないか。

<ゲストスピーカー>

- 検討会では、港湾における現状のエネルギーの利用状況を把握し、今後 CO2 を削減するために必要となるエネルギー転換の方向性を検討し、制度面や技術面の課題を明らかにした上で、次のアクションを検討することが重要だと認識している。NEDO のプロジェクトの中にもこれらの調査を支援するメニューがあるため、活用頂きたい。

(議事 2-3 : 苅田港における CNP 形成に向けた取組の方向性 (案))

事務局より、「苅田港における CNP 形成に向けた取組の方向性 (案)」等について内容の説明を行った。

(議事 2-4 : 今後の進め方)

事務局より、令和 4 年 3 月下旬に「苅田港における CNP 形成に向けた取組の方向性 (案)」を公表する方針であることを説明した。また、令和 4 年度以降については、CNP 形成計画の策定に向けた議論を引き続き行っていく予定であることを説明した。

以上